

市政のあり方を問う!

行政コスト縮減に
向けた取り組みと
方向性



政岡哲弘

行 革

問 津山市における行政コスト縮減に対する取り組み状況と、類似団体との比較は。また、議会における議員定数の削減について。

答 行政コストについては、経常経費充当一般財源において人口1人当たり約24万円で、類似団体より約4万4千円高い状況である。縮減策としては、事業仕分けの実施、土地開発公社の清算、定員適正化計画の実行、ファシリテイ

マネジメントの導入などを行い、多方面から取り組んできた。今後にお



津山市役所

いても、職員の創意工夫と市民・事業者の理解を得て、第10次行政改革大綱に新たな見地から全力で取り組みたい。また、議員定数に関しては、一方的に考えを述べる立場になく、議会活性化調査特別委員会等の議論を見守りたい。

子育て支援・
中山間地域振興
施策について



津山誠心会議
津本辰己

定 住

問 出産祝い金の支給、義務教育終了まで通院費の完全無料化の実施により、晩婚化・晩産化に歯止めをかけ、若者の定住化促進に取り組むべきではないか。

答 子ども医療費等の経済的負担の軽減施策は非常に重要であり、他の子育て支援策を含め、総合的に検討していく。



問 中山間地域の振興施策を総合的かつ計画的に推進する津山市中山間地域振興施策の基本条例を制定すべきでは。

答 津山市中山間地域対策会議や本年度設置する中山間地域懇談会の中で中山間地域振興の重要性について議論し、基本条例の制定も含め、研究していき

地 域